

COAR 2017年（第8回）総会参加報告

オープンアクセスリポジトリ連合（Confederation of Open Access Repositories : COAR）はドイツのゲッティンゲンに拠点を置き、35か国120以上の参加機関から構成される国際的な組織である。オープンアクセスリポジトリのネットワークを基盤とした持続性のある国際的な知識共有の場の形成（[“Working for a sustainable, global knowledge commons based on a network of open access digital repositories”](#)）をビジョンとして掲げ、リポジトリコミュニティへの支援や新たな技術及び機能への対応の促進、国際的な声明の発表等に取り組んでいる。2017年で第8回目を迎える年次総会に、情報・システム研究機構国立情報学研究所及びオープンアクセスリポジトリ推進協会（Japan Consortium for Open Access Repository : JPCOAR）より各1名が参加したため、以下に報告する。

期間：2017年5月8日（月）～10日（水）

場所：Università Ca' Foscari（イタリア ヴェニス）

参加者：山地 一禎（情報・システム研究機構 国立情報学研究所 オープンサイエンス基盤研究センター長／コンテンツ科学研究系准教授）

香川 朋子（JPCOAR メタデータ普及タスクフォース作業部会員／お茶の水女子大学 図書・情報課 情報基盤担当 一般職員）

概要：COAR 2017年（第8回）総会に参加し、オープンアクセス及びオープンサイエンスに関する最新の国際動向について情報収集を行った。総会には世界各国から約80名の関係者（研究者、システムエンジニア、図書館員等）が参加し、各地域の活動状況についての情報交換や、より緊密な連携を目指す国際協定の締結、共通的な課題についての戦略的な議論が展開された。また、総会における各国からの事例報告として日本のオープンサイエンスの基盤整備に関する取り組みについて紹介するとともに、統制語彙のセッションにてJPCOARスキーマの策定について事例報告を行い、国際的な学術情報流通の枠組みへの参加を促進するため、関係者との人的ネットワークの構築に努めた。

プログラム：

2017年5月8日（月）

- Aligning Repository Networks Strategic Meeting
- Controlled Vocabularies Open Session

2017年5月9日（火）

- Plenary – Regional Updates and Status of Alignment
- Plenary – Discussion of Strategic Issues
- Next Generation Repositories Working Group Meeting
- Plenary – Next Generation Repositories
- Open Metrics Interest Group Meeting

2017年5月10日（水）

- COAR General Assembly
- Plenary – Research Data Management Session

主な報告事項：

1. 2017年総会の内容

- 新規参加機関の承認
 - ・ 2016年総会以降の新規参加機関は11機関及びJPCOAR

- ・ スタッフ5人全員が他の業務との兼務で常勤スタッフは不在という小規模な事務組織のため、参加機関の協力が不可欠であり、今後も参加機関を増やしていきたい
- ・ 特に日本は積極的に COAR の活動に貢献しており、感謝している
- ・ 新規参加機関の加盟について、46 の総会参加機関の内、40 機関の賛成多数により承認された
- 2016/2017 年の活動報告
 - ・ 4 つの戦略的方向性に沿った活動報告がなされた
 - ・ 戦略的方向性 1：優れた学術研究や教育に対する支援を行うための国際的な研究基盤の重要要素として、持続性のある国際的なオープンアクセスリポジトリのネットワーク構築を促進する
 - [UNESCO とのオープンアクセスに関する共同声明の策定](#)
 - [Asia OA Summit の開催 \(2016 年 11 月 14～15 日マレーシア クアラルンプール\)](#)
 - Initiative for Open Citations (I4OC) へのサポート
 - オープンアクセス及びオープンサイエンスに関する様々な会議、イベント、ワークショップ等への参加
 - ・ 戦略的方向性 2：リポジトリコミュニティを支援し、リポジトリやリポジトリネットワークの構築・運営に関する地域的な能力を向上させる
 - 活動への助成、ウェビナーやワークショップの実施
 - 図書館員のスキルや能力向上を目指す[共同タスクフォース](#) (The Association of Research Libraries (ARL)、 the Canadian Association of Research Libraries (CARL)、 the Association of European Research Libraries (LIBER)、 COAR) によるサポート
 - ・ 戦略的方向性 3：相互運用性や標準及びベストプラクティスの定義や普及
 - 8 つの地域 (オーストラリア、カナダ、中国、欧州、ラテンアメリカ、南アフリカ、アメリカ、日本) によるコミュニティーベースのオープンアクセス基盤整備に向けた緊密な連携を目指す[国際協定の締結](#)
 - COAR Controlled Vocabulary Editorial Board による語彙の策定及び多言語化 (12ヶ国語) の実施
 - [欧州とラテンアメリカとの共通のメタデータガイドラインの策定や技術情報の交換](#)
 - OpenAIRE によるメタデータ交換 (日本：JAIRO、ラテンアメリカ：LA Referencia、チリ：CONECYT)
 - 関連する会議への出席 (SHARE、LA Referencia、中国 IR Conference、Canadian Association of Research Libraries)
 - CASRAI-UK Open Access Working Group への参加
 - ・ 戦略的方向性 4：リポジトリやリポジトリネットワークにおける付加価値のあるサービスの構築及び実装の促進
 - 次世代リポジトリワーキンググループ (WG) では、2017 年 2 月に利用事例を提示してパブリックコメントを実施した。今後は新たな機能に対応するための推奨される技術や設計の検討及びコミュニティへの普及を予定

- 研究データ管理 Interest Group (IG) を設置し、研究データ管理に関する検討やベストプラクティス及び戦略の策定、リポジトリコミュニティにおける研究データ管理の支援を実施中
- オープンメトリックスグループの IG を設置し、ベストプラクティスの策定について検討中
- 予算にかかる報告
 - COAR の活動資金は、参加費（基本活動費）、OpenAIRE2020 プロジェクト等の欧州委員会からの助成、有志の機関からの助成（2016 年は University of Alberta（カナダ）、the University of Minho（ポルトガル）、SPARC）、年次総会参加費からの補助、その他寄付金から構成される
 - 参加機関が増えているため今後の活動資金の増加は見込まれるものの、潤沢な財政状況ではない
 - OpenAIRE2020 プロジェクトからの助成は 2018 年 6 月までとなっており、次の助成候補を探している
 - 支出の内、人件費の割合が大きく、ミーティング等の旅費も負担となっている
 - 参加費の値上げに対する議論
 - 参加費に関して 3 つのオプションが提示され、値上げについて議論が行われた
 1. 参加費の値上げはなし
 2. 100 ユーロの値上げ（2019 年は 12,000 ユーロ増加の試算）
 3. 200 ユーロの値上げ（2019 年は 24,000 ユーロ増加の試算）
 - 予算上の制約から値上げには難色を示す意見や、2 番目の値上げオプションによって更なる活動の活性化に期待する意見、COAR が提供するサービスを有料化してはどうかといった提案、一律の参加費ではなく構成員数等による柔軟な参加費の設定が望ましいといった様々な意見があった
 - COAR への参加はビジョンを共有できるかが重要であり、参加費とビジョン共有のバランスは難しい
 - 参加費については総会での議論を受けて、再度戦略の見直しを行うこととなった
 - 参加費を支払わない機関については、[Articles of Association 5.3 b](#)) に従って退会勧告を行い、2016 年末で 5 機関が退会した
 - [Articles of Association 10.1 f](#)) に従って新監査役（2018～2021 年）の選出が行われ、Irena Krivine 氏（Vinius University 図書館長）が賛成多数により承認された
 - 次回の総会は 2018 年 5 月にドイツにて開催予定
- 各国の事例報告及び戦略的課題に関する議論
 - 総会に先立ち、各国の最新の取り組み状況に関する事例報告が行われた
 - [ラテンアメリカ：LA Referencia: Regional Infrastructure for Open Access, Open Science. \(Alberto Cabezas\)](#)
 - [日本：Regional Update from JAPAN \(Kazu Yamaji\)](#)
 - [中国：Repository Network in China \(Alan Ku\)](#)
 - [欧州：Open Access infrastructure for research in Europe \(Wolfram Horstmann\)](#)

- [アメリカ : Repository situation in the United States and a SHARE update \(David Minor\)](#)
- [カナダ : Regional Repositories Update - Canada \(Martha Whitehead\)](#)
- [南アフリカ : South Africa/ African Repository Network: Highlighting developments of repositories in Africa \(Lazarus Matizirofa ; Daisy Selematsela\)](#)
- ・ 事例報告の後、戦略的な課題に関する話題提供を受けて、議論が行われた
 - [MIT Future of Libraries Report \(Gregory Eow\)](#)
 - Licensing negotiations
 - ORCID IDs – why, or why not?
 - [Pragmatical approaches for a trans-national sharing of experiences, expertise and contents between China and Germany \(Friedrich Summann\)](#)

2. メタデータ

- ・ COAR Controlled Vocabulary Editorial Board から統制語彙の策定・検討状況について紹介があり、続いて OpenAIRE のガイドラインや DSpace、各国における COAR 統制語彙の実装事例について報告があった。
- ・ [COAR 統制語彙の策定状況に関する紹介 \(Isabel Bernal - DIGITAL.CSIC, CSIC\)](#)
 - ・ 欧州内で使用されていたアプリケーションプロファイル「[info:eu-repo](#)」からより汎用的な語彙への転換を図るため、Editorial Board により、4 つの統制語彙 (Resource Type、Access Mode、Version、Date Type) の策定を進めている
 - ・ セマンティック Web やオープンデータ対応のため、文字列だけでなく全ての語彙に永続的な URI (Concept URI) を付与し、Web ベースの管理システム VocBench を使用して管理している
 - ・ Resource Type では語彙の階層化に挑戦し、フラットではなく階層ツリーを有する語彙のセットとなっている
 - ・ 語彙の多言語化を行っており、現在 Resource Type は 12 か国語に翻訳しているが、アラビア語の不足が課題
 - ・ 現在、Access Mode の統制語彙を策定中 ([Draft v.1](#)) であるが、Green OA と Gold OA をどのように定義に反映するかが懸案
 - ・ 策定中の Resource Type v.2.0 についてセッションの参加者と意見交換を行ったところ、語彙の階層化が複雑といった意見や語彙が多いため検索時に適切な語彙を選択しにくいのではといった意見があった
 - ・ このような意見に対し、新しい技術に対応することが次世代リポジトリの目標の一つであり、階層化は新たな挑戦であり、COAR の統制語彙を使用するベネフィットを共有するため、2017 年 6 月にドキュメントを用意する予定という説明があった
- ・ [DSpace への実装事例 \(Pedro Principe\)](#)
- ・ [Classification サーバーへの実装事例 \(Sandor Kopacsi\)](#)
- ・ [OpenAIRE-Literature Repositories, CRIS ガイドラインへの反映状況 \(Pedro Principe\)](#)
- ・ [各国の導入事例：日本 \(Tomoko Kagawa\)](#)
- ・ [各国の導入事例：ポルトガル \(Pedro Principe\)](#)
- ・ [各国の導入事例：ラテンアメリカ \(Alberto Cabezas\)](#)

3. 次世代リポジトリ

- 2016年4月に設立された次世代リポジトリ WG の活動状況の報告、OpenAIRE notification broker 等のプロジェクトで検討が進められている自動でメタデータの重複除去・リンク形成やエンリッチメントを行うブローカーサービス、データマイニングや次世代のピアレビュー、Dspace7 の機能等について紹介があった
- [Introduction to next generation + 7 Next steps, implementation and adoption \(Eloy Rodrigues\)](#)
 - WG には各国から様々な経験を持つメンバーが参加し、次世代リポジトリに必要な機能や設計について検討を行っている
 - 複数のリポジトリシステムの相互運用性を高めるためには、Web に適応したシステムが必要であり、メタデータだけでなく研究そのものを扱う点に注意することが重要
 - WG の最初の成果物として2017年2月7日～3月3日に12のユーザーストーリーを公開してパブリックコメントを募集したところ、60以上のコメントが寄せられた
 - コメントを受けて、次世代リポジトリに推奨される機能や技術を2017年6月のOpen Repositoriesにて公表予定
 - 相互運用性の確保にメタデータは重要なため、共通的なメタデータガイドラインの策定を行う方針であり、共通的な利用分析の推奨やトレーニングプログラムの提供も検討中
- [Data syncing and notifications \(Paolo Manghi\)](#)
- [Text and data mining and recommender systems \(Petr Knoth\)](#)
- [Peer review, annotation and commenting \(Pandelis Perakakis\)](#)
- [What does the next generation repository look like? \(Paul Walk\)](#)
- [What can be done right now? \(Andrea Bollini\)](#)

4. 研究データ管理

- 総会において、研究データ管理 IG では研究データ管理に関する各種サポートとしてウェビナーの実施（年間8～10回程度）、技術的かつ政策的なアドバイスの提供、ドキュメント整備、標準や最新動向の情報共有、リポジトリシステムへの機能要求等を行っている旨の紹介があった
- また、未普及の国や地域に向けてもコミュニティやネットワーク構築の戦略について支援する他、[COAR 参加機関への研究データ管理に関する調査](#)も実施しており、よりアクティブでコミュニケーションを取りやすい IG を目指してリポジトリの価値の提示やトレーニングを提供していく方向性であることが報告された
- 研究データ管理のセッションでは、スコットランド（エディンバラ大学の事例）、カナダ（Portage プロジェクト）、欧州（LEARN プロジェクト）より、各種ドキュメントやベストプラクティス、ワークショップの開催等によるトレーニングの提供、研究データ管理のベネフィットの提示等による意識喚起の取り組みについて紹介があった
- [Supporting researchers in managing data: focus on data management plans \(Robin Rice\)](#)
- [Portage Network - a national, library-based approach \(Martha Whitehead\)](#)
- [Outcomes of the Learn Project \(Paolo Budroni\)](#)

5. オープンメトリックス

- オープンメトリックス IG によるミーティングが行われ、メンバー同士の情報交換や関連するプロジェクトの情報共有が行われた
- [IRUS-UK \(Institutional Repository Usage Statistics UK\)](#)
 - 参加する 126 のリポジトリから利用統計を収集して COUNTER 準拠の形式に変換し、収集元のリポジトリにデータを還元する他、各種分析機能を提供
- OpenAIRE Statistics
 - COUNTER 準拠の利用統計を収集するため、欧州のデータ保護規則に対応した SUSHI に類似するシステムを構築中
 - OpenAIRE のデータ提供元から利用統計（閲覧数及びダウンロード回数）を自動収集し、プロバイダレベル、個別アイテムレベルで集計する他、OpenAIRE における検索やブラウズ回数も集計する
 - データやソフトウェアなど伝統的な成果物（学术论文）以外のリソースも対象
 - 利用統計の重複除去を行い、オープンソースソフトウェアである Piwik による統計分析のポータルも試行構築中
- [GoeScholar](#) (Georg-August-Universität Göttingen)
 - Twitter のツイート回数や Mendeley での閲覧数を表示
- J. Priem, D. Taraborelli, P. Groth, C. Neylon (2010), [Altmetrics: A manifesto](#), 26 October 2010. <http://altmetrics.org/manifesto>
 - 記事に対するリンクやブックマーク、コメントが多数寄せられた
- [NISO Alternative Assessment Metrics \(Altmetrics\) Initiative](#) が 2016 年にプロジェクト報告書を公開
- [LIBER 2017](#) (2017年7月2日～7月7日) において [LIBER Metrics WG](#) によるオープンメトリックスに関するセッションやミーティングが開催される予定
- オープンアクセスの統計については、Bielefeld University と Heidelberg University が先進的な取り組みを行っている
- その他にも、[metrics Project](#) (DFG が助成するプロジェクト) や [HIRMEOS](#) (学術書の利用統計の収集に対応) による取り組みもある
- 総会において、オープンメトリックは重要な検討課題のため、メンバーを拡大すべきという意見もあった

6. その他

- 総会には世界各国より様々なバックグラウンドを持つ参加者が出席していたが、国や政策、環境の違いを超えて、各自が COAR の掲げるビジョンを理解し、高い意識を持って COAR の活動に貢献しようとする姿勢が感じられた
- ビジョンの共有が進んでいることにより、異なる意見があっても受容し、最終的には一つの方向性を見出す雰囲気が醸成されており、成熟したコミュニティの姿として見受けられた
- 参加者は WG や IG に参加している者が多く、普段は遠隔で連絡を取り合っており、総会はその連携をより緊密なものとする場として機能しているようであった
- コミュニティの先例として、またメタデータや研究データ管理等の共通的な取り組みとして、COAR の活動は JPCOAR にとって参考となる部分も大きい、ベネフィ

ットを享受するだけでなく、こうした国際的な活動にどのような貢献が可能であるかを再考する機会となった

- まずは JPCOAR のメタデータスキーマ改訂から得られた経験を COAR に還元し、双方にとって有益な改善が図られるような活動を続けていきたい

参考情報：

- [2017年総会概要](#)
- [2017年総会プレゼンテーション資料](#)



Controlled Vocabularies Open Session の様子

総会の様子（上段）／総会会場（下段）